

## 令和3年度第1回狭山市立図書館協議会（書面開催）会議結果

令和4年1月19日（水）に開催を予定しておりました令和3年度第1回狭山市立図書館協議会は、新型コロナウイルス感染症に対応した緊急事態宣言の期間延長を受け、書面での開催となりました。

期間 令和4年1月18日（火）書面による審議依頼  
（令和4年2月1日（火）回答期限）

### 議題

- （1）令和3年度4月から12月の事業報告について
- （2）第3次狭山市子供読書活動推進計画の策定について
- （3）その他（図書館全般に渡る意見など）

回答委員： 伊藤真理子委員、今福裕美子委員、齋藤裕美委員、指田良恵委員、宮崎望委員、横田保太郎委員、佐伯哲雄委員、阿久澤忠委員、河野郁夫委員、小浦太郎委員

以下、書面により提出された質問や意見

## (1) 令和3年度4月から12月の事業報告について

### <質問>

Q 1

図書館利用推進事業において、児童には、「よむぞうタイム」や「よむレンジャー」がありますが、一般書の広報活動は何か行っていますか

A 1

「図書館だより」の発行を行っております。今後、「図書館だより」は図書館ホームページに掲載してまいります。その他、テーマに沿った本の特集や、一般書で新しく入った本などを置く棚では、表紙が見えるように展示する「面出し」などで、目立つように工夫しています。

Q 2

新型コロナウイルスにより、中止となっている事業が多いようですが、令和2年度の振り返りで代案などの審議は行われたのでしょうか。また、Web会議システム活用などの研究調査などを行っていますでしょうか。

A 2

中止した事業のほとんどがお話会でした。動画配信も考えましたが、著作権や公衆送信権の問題があるため、実施を見送りました。

図書館のホームページでは、オンラインでお話が聞けるサイトなどを紹介しております。その他、図書のテーマ展示は、展示予定であった図書をリスト化してホームページに公開しています。

中止された「子ども映画会」については、すでにオンライン上で様々な動画配信が行われており、著作権の問題もありますので、図書館としてオンライン上での実施は考えておりません。

Web会議システムの活用については、図書館協議会委員の皆様のネットワークの環境や情報端末などの状況を確認するとともに、図書館では、市の情報政策部門が構築したインターネットのネットワークや会議システムの中で運用を考える必要があることから、LAN環境や通信データ量などの課題を市の情報政策部門に相談しながら更に研究調査を行ってまいります。

### <意見>

1. 事業名：講座及び講演会・学習会：学校図書館司書との情報交換会について、情報交換会の回数が年間1回となっていますが、回数を増やすべきだと思います（例；学期に1回、年間3回）。

具体的に言うと、第3次狭山市子供読書活動推進計画策定のためのアンケート調査の「読書に関するアンケート結果（児童・生徒）」の質問11①『読

みたくなるような本がたくさんあれば、もっと読むと思う』の回答が、小学2年生 34.0%、5年生 47.7%、中学2年生 51.1%でした。

児童・生徒の、“読みたくなるような本”について検討・研究する必要があります。小・中校そして中央図書館の貸し出しの履歴を、付き合わせ分析すれば、“利用者の好む本”の傾向が的確につかめます。

その情報を活かして、選書し、計画的に資料を購入していけば、ユーザーの期待に応えることができます。

学校図書館司書と中央図書館は、現場の児童・生徒の実態について、十分に情報交換し、中央図書館は、大局的な対応が図れると良いです。

**【事務局】**学校との情報交換は重要だと認識しております。情報交換会以外にも随時、現在でも学校への出前講座の際や、学校図書館司書の図書館来館の際などに情報共有に努めております。機会を捉えながら学校と連携をしてまいりたいと考えております。

『読みたくなるような本がたくさんあれば～』につきましては、ブックトーク（一つのテーマにそって様々なジャンルから本を選び、順序よく紹介していく手法）や図書館見学の際に児童生徒に本の紹介を行うと、多くの子供が読みたいと借りていきます。よって、実際には、「読みたくなるような本がない」というよりは、読みたくなるような本に出会えていないものであり、子供の背中を押して、質の高い読書を促す事が大切だと考えております。

2. 充実した内容の事業運営だったと思います。

**【事務局】**コロナ禍でできることを探りながらの運営となっておりますが、中央図書館では児童向け事業のほか、一般書のミニ特集や認知症に関する講座の開催、大人向けのお楽しみパック事業など、これまでよりも一般向け事業を行いました。また、指定管理の狭山台図書館では、図書館から外に出て公園で行う事業や、併施設設である地域スポーツ施設とともに広報紙を創刊するなどの事業を展開しました。

3. 広報誌などを製作するのも大変ですが、読みたい本がわからないという子供たちと同様に、読みたい本がわからない大人もいるのではないのでしょうか。一般書のフロアでも何か行うことができませんか。また、いろいろ企画して展示をされていますが、児童書コーナーに比べて図書館3階入り口（一般書のフロア）から入ったときに“読んで～”という「推し」が弱い感じがしてもったいない気がします。

**【事務局】**中央図書館の一般書のフロアは児童フロアと違い、毎月の特集展示は入り口近辺ではなく、少し中に入ると見えるような位置にあります。ミニ特集などは、利用者の動線や安全性にも配慮した上で、入り口から見える位置にブックトラックを置いて小さなコーナーを設置して行っております。今年度は利用者に「見せる」ことを意識して、特集にあったパネルを展示したり、装飾を施してコーナーを設置してまいりました。今後、利用者の関心

を引き、手に取っていただけるよう、更に「見せる」ことを意識して取組んでまいります。

4. 対面を中心にした活動が実態ある（有形の）図書、および図書館で重点的に取組まれるのはわかりますが、Zoom 等による Web 会議システム利用は協議会の円滑な開催ばかりでなく、読書活動を推進したいという方たちの参加の裾野を広げる可能性が高いと考えています。対面活動中止に伴う予算の計上などを検討ください。

**【事務局】**＜質問＞のA2の再掲となりますが、図書館協議会委員の皆様のネットワークの環境や情報端末などの状況を確認しながら、また、図書館は市役所が構築したインターネットのネットワークの中で運用を考える必要があるため、市の情報政策部門にも相談しながら更に研究調査を行ってまいります。

併せて、公民館等の講座などで ICT を活用し始めておりますので、情報やノウハウを得るよう努めてまいります。

5. 新型コロナウイルスの影響で、中止になった事業もありましたが、開催された事業もあり、少し安心しています。

オリンピックや狭山ゆかりの文学者特集はとても良かったと思います。

**【事務局】**今年度、中央図書館では児童対象事業のみでなく、一般対象事業でも例年より多くの特集を組んでまいりました。今後もその時々にあった事業を展開してまいります。

## ＜その他＞

1. コロナウイルス感染に対応しながらご苦労が多い中で、できる限りの工夫で事業を実施された様子がうかがえます。ありがとうございました。

**【事務局】**今後も感染症対策を行いつつ、できることを探りながら事業を実施してまいります。

## （２）第 3 次狭山市子供読書活動推進計画の策定について

### ＜質問＞

Q1①

施設の体系（案）の、3-（4）「家庭における子どもの読書活動の推進」の施策の内容に「学校図書館の人的配置の充実」とありますが、具体的な計画があれば教えてください。

A1①

現在、教育指導課では、学校図書館司書をすべての小中学校に配置していますが、8名の学校図書館司書が中学校を拠点にして1名あたり2～3校を兼務しているのが現状です。兼務校数を減少できるように、毎年予算要求をしているところではありますが、引き続き、予算要求をしてまいります。

#### Q 1 ②

「読書に関するアンケート」の中で、小2でも1ヶ月に読書冊数が0冊という子供がいますが、(子供なので、読んだことを忘れていたり、読んでいたという認識がなかったりする場合もあると思いますが、)授業の中で本を借りたりすることはないのでしょうか。

#### A 1 ②

授業の中で、本を借りたりすることはあります。しかしながら、昨年度からのコロナの影響により、異学年交流等を避けるため、休み時間等の学校図書館の開館時間を制限したり、共用する本の貸し出しを控えたりするなどの対応をした学校がありました。そのため、特に低学年においては、図書館に足を運ぶ機会や意欲的に図書館を使用する意識が低下したことも原因の一つではないかと捉えております(教育指導課より回答)。

#### Q 1 ③

施策の体型(案)の基本目標I「家庭・地域・学校における子供が読書に親しむ機会と環境の充実」の推進の柱1「家庭における子供の読書活動の推進」の担当にPTAは入りませんか。

#### A 1 ③

市(教育委員会含む)や市の施設が主体的に行うことを記載しておりますので、「担当」は市の各担当部署となり、PTAを記載することは考えておりません。ただし、施策または実際の事業の中でPTAとも協力して取組んでまいりたいと考えております。

#### Q 2 ①

狭山市内の子供たちの状況はどういったもののでしょうか。読書と直接の関係性は薄いのかもしれませんが、一般的な家族構成メンバーや世帯年収なども読書推進の観点では有用な情報ではないかと思えます。

#### A 2 ①

そのような情報も必要に応じて参考にしながら、家庭、地域、学校などで子供の読書活動を推進するような計画を策定してまいります。

#### Q 2 ②

読書の統計などについて全国・県内比較情報がありますでしょうか。読書量のみでも比較できる情報があれば知りたいところです。

## A 2②

国と毎日新聞が実施している「学校読書調査」や、「埼玉県学力・学習状況調査」などに不読率（1か月に1回も本を読まない割合）の統計があります。調査年は違うものもありますが、参考まで引用いたします。

### 【不読率】

●全国（第65回学校読書調査(2019年6月):国、毎日新聞による抽出調査)

小学5年生 5.7%

中学2年生 10.2%

●埼玉県および狭山市（埼玉県学力・学習状況調査(2021年5月):埼玉県教育局)

対象学年	埼玉県内	狭山市内
------	------	------

小学5年生	11.5%	13.1%
-------	-------	-------

中学2年生	16.8%	13.5%
-------	-------	-------

●狭山市（第3次狭山市子供読書活動推進計画策定のための「読書に関するアンケート」(2021年10月):狭山市立中央図書館)

小学5年生 8.4%

中学2年生 12.5%

## <意見>

1. 特に図書館資料の充実に期待しております。

なお、「読書に関するアンケート結果（児童・生徒）」「同（保護者）」は詳細な結果報告で参考になりました。

**【事務局】**引き続き、資料の充実に取組んでまいります。

2. ①各学校に「学校図書館司書」を専任で配置していただきたいと思えます。「読書に関するアンケート」を読んで、学校図書館の活動で学校図書館担当者が力を注いでいることの中に学校図書館司書との連携を選択する割合が低いのに驚きました。でも、図書資料の整理等は司書が行っているのに、もったいないです。各校に1人ずつ配置されると主任の先生との連絡も密になり主任の負担軽減になるのではないのでしょうか。さらに日頃から本の紹介がされていると「読みたくなるような本があればもっと読むと思う」の回答が減少すると思えます。司書の活動も充実できるのではないのでしょうか。

**【事務局】**もしかしたら「力を注ぐ」という感覚ではなく、実は自然に連携している、あるいは、思っているより実際は頼りにしていると考えられなくもないとは思いますが、いずれにしても、今後の活動の中で、連携を更に深めていくことは必要だと考えております。ご意見のとおり、日ごろから、子供の背中を押してくれる存在の必要性は認識しており、<質問>の回答A1①の再掲になりますが、教育指導課で学校図書館司書の配置増に努めてい

る状況であります。

2. ②PTAの“家庭教育学級”というのが私の子育て時代にはありましたが、そういう活動を通して、保護者の意識を高めることもできませんか。

**【事務局】**保護者の意識を高め、家庭読書の啓発に取り組むことを計画しており、家庭教育学級へアプローチをしていきたいと考えております。

3. ①アンケートの結果から考えると「自分にとって読みたくなる本やその情報が入手しにくい」ことが書籍や読書離れの主たる要因となっています。こうした情報を届ける、身近にアクセスできる施策の検討や実行に取り組む必要はあると思われまます（「(3) その他図書館全般に渡る意見など」のところで、公式サイトのある方について記載していますのでそちらの案についても検討ください(項番7))。こうした取り組みは既に多く行われているかと思えますので引き続きオンラインでの取り組みも進めるなど発展させていただければと考えます。

一方で、表層的に捉えすぎず(たとえ読みたい本にアクセスしやすい環境ができたとしても読書推進が飛躍的に広がらない可能性もあります)、そもそもスマホを中心としたSNSやニュースサイトなどで文字情報に多くアクセスする現在に書籍(電子書籍)による「読書」の価値はどこにあるのか、その根本的な意味についても低年齢のうちから「考える」、「体験できる」場面を用意していく必要をこのところひしひしと感じています。

文字に触れているだけでは、心の動きの受け止めなど想像することで豊かにできる感覚はなかなか身につかないため、疲弊してしまう子供も多くいる時代ではないでしょうか。読書推進が目的ではなく、より豊かな生活を送る上でのひとつの手段としての読書を認識していただくことかと思えます。

**【事務局】**読書は知識や情報を得られることはもちろん、想像力や創造力を培います。「文字を読む」のみでなく、自ら楽しんで「物語を読む」、行間も含めて「文章を読む」ことができるようになってもらうことを意識して取り組んでまいります。

3. ②大人が思うよりも、小中学生は将来の自分をどのようにしたいか、考え始めていると思います。故に、将来の目標(漠然としたこういった生活を送りたい、という程度でも良いかと思えます)との関係で、読書、そして図書館という存在がどういった意味を持つのかを伝達できる場面を用意できたら、と考えています。

**【事務局】**学校からブックトークの希望があった時に、職業をテーマにして実施したこともありました。また、3. ①の事務局意見に記載の取組を行う中で、図書館の存在意義や使い方も直接的、また間接的に伝えていきたいと考えております。

3. ③児童生徒向けアンケートの項目に「保護者や家族が読書しているのを見たことがあるか」(頻度についても回答)といったものを用意できると、どういった施策が必要なのか、また対象とする家庭をどういったところにあわせるか考えるキーになるかと思えます。

**【事務局】** 次回以降のアンケート調査の際に検討いたします。

4. 目標指標について、令和4年度目標が到達できることを願っています。さやまっ子は読書もする元気な子であってほしいです。

**【事務局】** アンケート調査結果からは目標達成は難しいのが実状ではありますが、そうした中で、中学2年生の学校図書館の利用率の増加は、学校図書館司書が週の半分を学校図書館業務に従事した効果と考えております。

## <その他>

1. 学校としてより一層、学校図書館の活用や生徒の利用数増加のための方策を実施していく必要があると考えています。

**【事務局】** アンケート結果を見ると、休み時間や放課後に学校図書館を「よくあるいは、ときどき利用すると答えた割合は、小学2年生も5年生も減少していますが、中学2年生は唯一増加しています。中学校から学校図書館司書が配置され(現在は週の半分は中学校に勤務)、資料の整理をすすめ、蔵書管理を電算化し、各校で様々な読書推進のための取組を行ってきた成果だと考えられます。

更に増加させていくには、学校図書館は、読書センター機能のみでなく、学習センター機能、情報センター機能を持つことも認識して、学校図書館司書と連携して授業においても使える図書館にしていくことが必要なのではないかと感じております。

## (3) その他図書館全般に渡る意見など

1. 新型コロナウイルス感染症の拡大により、業務も一部中止となりましたが、市民への利用をできる限りすすめてください。コロナ禍が2年間にわたる中で、新たな取組みをしていただき、市民の方も職員も安心して利用のできる施設にしてほしいと願います。(パソコンによるレファレンスサービス、電子図書の活用等)

**【事務局】** 電子図書は非来館型のサービスとして有効であることが期待され、コロナ以降、公共図書館での導入も増えてきております。しかし、電子図書の出版点数について「日本における電子書籍化の現状(2020年版)」による調査では、国内出版物の電子書籍化率は11.9%であり、また、そのジャンルは図書館ではあまり扱わないコミックなどは比較的多いようですが、図書館で購入して貸出しを行うような内容のものはまだ少ない状況です。また、



書籍の種類によっては買い切りでなく、一冊ごとに期間を決めて（2年に一度、あるいは52回貸し出しされたら、など）利用料を払い続ける必要がある、といった課題もありますので、今後も、動向を見ながら研究を続けてまいります。インターネットやメールでのレファレンスサービスは、職員のスキルの向上や職員体制を整える必要があるため、現在のところ実施はしていませんが、電話でのレファレンスサービスは行っております。

2. 狭山市民であり、本が好きな者としての一意見です。

中央図書館自体は以前から利用させていただき、楽しませてもらっています。

狭山市西口駅前が開発され、スカイテラスが充実した反面、中央図書館までの距離（心理的距離）が少し遠くなったような気がしています。

駅前の市民交流センターには、保育所やちゃっぼルームなどもあり、学生たちも自主勉強に訪れることが多いので、市民交流センターと中央図書館との連携をもう少し図れば、子供たちがより身近に本を手にとることができるように思います。

市民センターの一角に、図書館機能の一部が加わればいいなあと思っています。

**【事務局】**おひとりが感じていることというのは、他の方も感じている可能性のあることと思います。しかしながら、体制や管理運営面を考えると、機能の一部を市民交流センターに置くことは、現状では難しいと考えます。

教育振興基本計画では、社会教育施設間の連携を図っていくこととしており、また、子供の読書活動推進のためには総合子育て支援センターとの連携を図っていく必要性もありますので、連携を通じて、市民交流センター（公民館や総合子育て支援センター）と中央図書館との心理的距離を少しでも縮めていきたいと考えております。

3. コロナ禍において、事業等の実施は大変かと思いますが、引き続き感染対策を行い取組んでいただけたらと考えております。

**【事務局】**皆さまに安心してご参加いただけるように、感染対策に取り組みながら、できる限り、また、できない場合もできることを探りながら、事業の実施を図ってまいります。

4. コロナ禍での図書館サービスに苦慮されていることが拝察され、心苦しい思いです。

**【事務局】**お気遣いいただきありがとうございます。今後も制約の中でできることを考えながらサービスを行ってまいります。

5. 「さやまの100冊」はとても周知されてきていると思います。図書館の皆様の努力の賜だと思えます。また、「よむぞうタイムズ」や「よむレン

ジャー」は毎回楽しみにしています。長く続けるのは大変だと思いますが、これからも頑張ってください。

コロナ禍でも、止まること無く活動を続けて素晴らしいと思います。児童書は特に近隣の図書館よりはるかに蔵書数も多く、質も高く、狭山市の誇れる図書館なのでこれからも頑張ってください。

**【事務局】**狭山市は図書館数が少ない反面、1館の規模が大きく、ここに来ればほぼ全て揃うのが強みです。特に子供は「その時」を逃すと、次はありません。子供が「読みたい!」、「何かない?」と思った時に「こんな本はどうですか」と応えられるよう努めてまいります。

6. 今後も市立図書館と小中学校の連携のもと、子供たちの読書活動の充実を図っていきたいと思います。

**【事務局】**子供の成長過程に合わせて読書の楽しさや喜びを経験することができるよう、市立図書館と小中学校との連携事業を充実させたいと思います。

7. 近隣図書館および都内勤務先の図書館を利用しています。ホームページの情報量がスマホ時代の現在にあって非常に少なく、楽しんで図書館を利用するという一助になっていないかと思います。20歳以下の世代がブックマークして利用できるサイト構築をまず検討してみたいでしょうか。

資料作成ご苦労さまです。特にアンケート分析については読み込みに時間がかかるため、全ての情報をインプットするのに難儀しています。予断が発生せぬよう考慮も必要ですがポイントとなる視点や視座などパワーポイント数枚程度にまとめていただけると助かります。

**【事務局】**20歳以下の世代向けのサイト構築について、委員のご助言もいただきながら、研究を進めてまいりたいと思います。

8. エリックカールさんを偲んで特集はまた継続していただきたいです。お楽しみパック事業も、沢山の方が利用されていて素敵な事業だと思います。

**【事務局】**エリック・カールさんは「色の魔術師」ともいわれ、色鮮やかな素敵な作品を描いています。改めて集めてみると、展示スペースも華やかになり、たくさんご利用いただけました。

今後も、その時節に合う特集を考案してまいります。この春の「こども読書の日」「子どもの読書週間」では、松岡享子さんの特集を予定しています。一度は手にしたことがある絵本のみでなく、長らく読み続けられてきた素晴らしい本がたくさんありますので、ぜひ、ご利用ください。